

第3種郵便物認可

山梨

Weekend Report

# 賛成 2氏に聞く 反対

## 災害、ひどごとじやない 樋口 雄一さん



がれき処理については、「自分たちが被災する立場になったときどうするか」ということも考えないといけない。山梨でも大地震や山津波、原発事故を伴う災害が起こりうる。ひどごとじやありません。

昨夏(2011年)までは、子どもがいる主婦などの間で「絶対にNO」という空気があった。だが、震災1年を迎えた今年の3月11日前後に、被災地で山積みになっているがれきの映像が流れ、世論の潮目が変わった。

山梨県も、灰の処分場がないという事情はあるにせよ、できることは協力する

気持ちは大事だと考え、県議会として後押しした。「絆」と口では言いながら、「がれきはNO」でいいのか。被災者になった立場で考えないといけない。

ひぐち・ゆういち 県議。民主系党派「フォーラム未来」代表。2月の県議会で、がれきの広域処理について県に積極的な関与を求める決議の際、中心的な役割を担った。



## 上から押しつけはダメ 池田こみちさん

震災がれきの広域処理は、民主的プロセスを経ないまま上からの押しつけで進められており、国による地方自治体への施策の強制。受け入れないと「冷たい」「身勝手」と批判されること自体が問題だ。

直営の処分場を持つ県ですら、灰の埋め立てについて

そもそも放射性物質を拡散させてまで広域処理をする必要はない。焼却処理に固執せず、がれきを集めて山にし長期間管理するなどの案を検討すれば、新たな雇用も生まれ、環境、経済面の負担も少なくて済む。

いけだ・こみち 民間のシンクタンク、環境総合研究所(東京都)顧問。長野県環境審議会委員などを務めた。

環境総研顧問 池田こみちさん